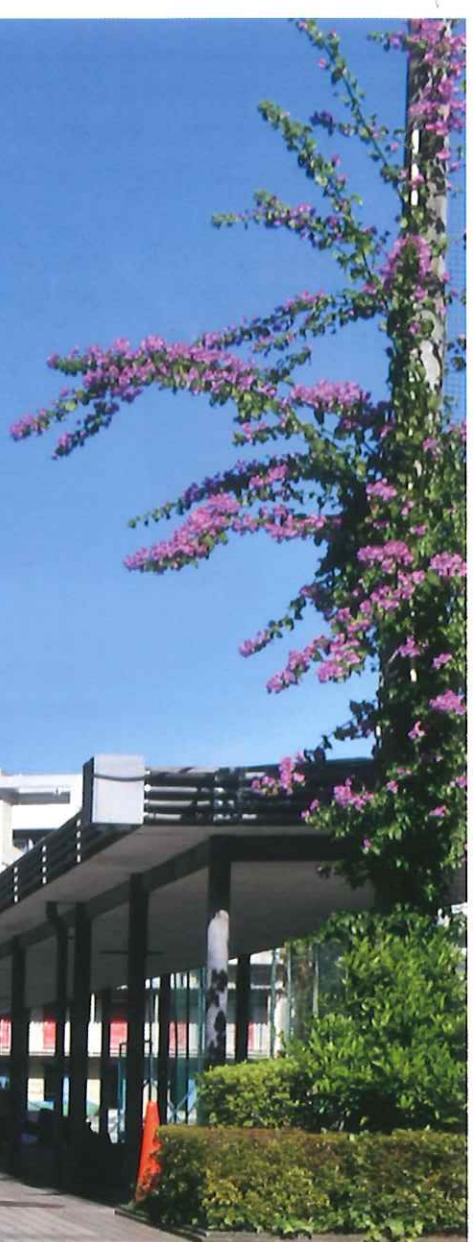


Contents

- P2-3 生徒会長に聞く  
有馬百恵さん・高野武士さん
- P4-5 城中祭代替大会 Photo Gallery
- P6-7 コロナ禍でも、自分たちにできること。  
坂ノ上朋叶さん・櫻井翔太さん・鈴木理央さん
- P8 専門委員会活動報告



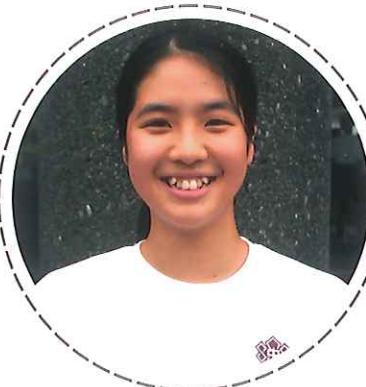
全集中！  
ジョウチュウ！！

Tonai'ness

2020年度後期号  
令和3年3月10日発行

# INTERVIEW

コロナ禍の今年度は例年通りの学校活動ができず、その中でできることを探しながら、皆が頑張っています。残念ながら中止となってしまった今年度の城中祭ですが、運動部門の代替大会となる「Reiwa Jump（長縄大会）」「Reiwa Dash（リレー大会）」が第74代生徒会本部を中心に行われました。第74代生徒会長有馬百恵さん、第75代生徒会長高野武士さんに話を聴きました。



第74代生徒会長  
3年 有馬 百恵さん

——9月23・28日の両日、生徒会主導の令和2年度城中祭代替大会が無事行われました。「Reiwa Jump」「Reiwa Dash」はコロナ禍で誰も経験したことのない環境下での、手探りで作り上げた活動でした。終えてみての感想、苦労した点、工夫した点などはいかがでしたか？

(有馬さん) このコロナ禍の中で、全校で競技を行うにはさまざまな面で対策が必要となりました。例年は、全学年が一斉に運動場に出て競技を行っていましたが、今回は三密を防ぐため、一学年ずつしか運動場に出ることができなかつたため、校舎内との移動が多くなり、大変でした。また競技中に関しても、応援する人は、距離を空け、マスクを着用しながらの応援となりました。

そのような中で、運営側としては、みんなが楽しんでくれるのか、不安な面もありました。

しかし、多くの人が、移動時間やコロナ対策をしっかりと守りながら、それぞれが今できることを楽しんでくれる姿や、クラスで協力している姿を、練習や本番で見ることができ、とても嬉しく思いました。

今まで経験したことのない形での城中祭となりましたが、今回の城中祭を通して、今まで当たり前にできていた行事の大切さ、人と人との協力して何かを成し遂げていくことの楽しさを、改めて感じることができました。今年の城中祭は、城中の協調性、3Sの柱であるSocietyが、とても活かされたものであったと思います。



——第74代生徒会長の活動、お疲れさまでした。1年を振り返っての感想と、第75代生徒会、城中生へのエールをお願い致します。

第74代生徒会長として、副会長、生徒会本部役員、各委員会委員長などを中心とし、3Sの実践をもとに、さまざまな活動に取り組んできました。今まで、行事や活動を成功させることができたのは、学年委員会をはじめとした、生徒一人一人が積極的に協力し、3Sを実践してくれたからだと思います。私は、この1年間、生徒会長として多くのことを学ばせてもらいました。

第75代生徒会でも、まだコロナの影響で、行っていくことの難しいことが出てくると思います。そのような中でも、できないことはばかりに目を向けて、できることをたくさん見つけて、第75代生徒会らしいものを作り上げていってほしいと思います。

がんばってください！



Reiwa Jump 責任者  
301 山田 麻央さん



Reiwa Dash 責任者  
305 小杉 歩己さん

——ありがとうございました。そして第75代生徒会長には、高野さんが任命されました。既に任期も半ばですが、今年度の抱負、決意などをお聞かせください。

第75代生徒会の活動方針の中にもある「活気」を、城内中にさらに生み出すような活動をしていきたいと思います。具体的にはスポーツ大会や部活動広報紙、城中祭などの活動を行ったり、ボランティア活動やEnglish dayなどの活動に、意欲的に取り組んでもらえるようにしたりしていきたいと思います。新型コロナウィルスの影響で、活動を行うこと自体、一筋縄ではいきませんが、全校のみなさんと一緒に第75代生徒会を創り上げていきたいと思います。



第74代生徒会の皆さん。活動を終えて。



お疲れさまでした。

——7月13日、「医療に従事されている方々に感謝の気持ちを送ろう」と、特支学級を含む2年生全員の作成した千羽鶴とメッセージボードが静岡市立病院に届けられました。活動を通して、いかがでしたか？

(高野さん) この活動を行う以前から、前期2年学年委員長の山本健太くんと共に、「このコロナ禍で何か自分たちにできることはないか」ということで、2年生に感染防止を促すポスター制作を呼びかけました。すると、多くのポスターが集まりました。この活動により、2年生全体の新型コロナウィルス感染予防に対する意識が高まったと思います。そして次の活動として、静岡市立病院の医療従事者の方々に2年生全員のメッセージと千羽鶴を送ることを企画しました。理由は主に2つありました。1つは、新型コロナウィルスと最前線で闘ってくださっている

ことへの感謝の気持ちを伝えたかったため、もう1つは、道徳の授業で医療従事者の方々が差別や偏見に苦しんでいることを知り、自分たちは差別や偏見を絶対にしないという決意を伝えたかったためです。作成した千羽鶴とメッセージボードを静岡市立病院の理事長さんにお渡しした際、「最近は差別や偏見は減りつつある」と理事長さんがおっしゃっていたのを聞き、少し安心したのを今でも覚えています。また、この活動に2年生一人一人が意欲的に参加してくれる姿を見て、改めてこの学年の温かさを感じました。

————ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。



第75代生徒会長  
2年 高野 武士さん



## 城中祭ステージ部門はできなかつたけど…

吹奏楽部は、9月26日(土)市民文化会館大ホールにて、演奏会「Rainbow～花を探す旅～」を行いました。



今年度初めての舞台…整えてくださった皆さんに、感謝の気持ちを込めて。

吹奏楽部前部長  
3年 村松 優さん

9月26日土曜日14時より、市民文化会館大ホールで演奏会「Rainbow～花を探す旅～」を沢山の人たちの手を借り無事開催することができました。コロナ禍で辛い思いばかりでしたが、この時だからこそ演奏することの喜びや聴いてもらえる嬉しさを感じることができ、一生の思い出になりました。



2年生は、12月23日(水)城内中体育館にて、合唱発表会を行いました。

2年学年主任  
田口 哲也先生

学年の自慢である合唱を絶やさないように、感染症対策を講じながら、無理せず安全を第一優先にして、練習してきた成果を発表し合いました。最後に混声四部合唱に編曲した校歌を、1番だけ学年全員でアカペラで歌いました。

ソーシャルディスタンスを取り、マスクをしての合唱発表でしたが、とてもきれいな歌声を体育館に響かせることができました。



保護者は、懇談会の日に動画を見る事ができました。



城中祭運動部門代替大会



9月23日 Reiwa Jump・9月28日 Reiwa Dash

# コロナ禍でも、自分たちにできること。

限られた状況下で、最上級生として、今、自分たちにできることを考え、「GOODBYE CORONA～今できることを全力で～」という集会を、1,2年生に向けて開いてくれた3年生。活動の中心人物3人に話を聴きました。

301 櫻井 翔太さん 302 坂ノ上 朋叶さん 305 鈴木 理央さん



――「GOODBYE CORONA」集会を開くに至った経緯を教えてください。

(櫻井さん) 新型コロナウィルスの影響で感染への不安が広がったり、部活動が満足にできず、学校全体の士気が下がっていたため、何らかの形でコロナへの警告を促したり、活動記録を残し部活動に区切りをつけ、卒業に動き出すために、このような集会を開くことになりました。

――鈴木さんは、新型コロナ対策のポスターを制作されたと伺いました。集会で紹介されていましたね。作ろうと思ったきっかけ、掲示してみての周囲の反応はいかがでしたか？

(鈴木さん) 長期間続いた休校が明けると、なかなか会うことのできなかった友達とも会うことができるようになり、自然と距離が近くなってしまうといった場面も、多く目にしました。休校が解除されたとはいえ、油断することなく、より多くの城中生が感染対策を行っていかなければならぬと僕自身感じていました。「何か自分にできることはないのか」と思案を巡らすことも多々ありました。

そんなとき、ポスターを制作したうえで掲示し、自然と目に入るようにすることで、少しでも意識を高めることができるのでないかという考えが浮かびました。すぐに制作に取り掛かり、2日ほどで完成しました。実際に校内に掲示すると、僕が作ったことに対して驚く声もありました。校内を歩いていると、やはり自然と目に入ってくるので、狙った通りでした。



鈴木さんが作ったポスターは(右)じゃとるんもマスクをしています。



301 櫻井 翔太さん

学年委員長として、自分たちができる事を考え、具現化するその企画力・発想力は大人をもうなれます。また、その作品は人を感動させる！学年の心です！  
(佐々木先生より)



302 坂ノ上 朋叶さん

いつも星休みにピアノを弾いている朋叶さん。マスクの歌だけではなく、他にも多くの作品があります。その想像力と感性には驚かれます！皆さんは是非聴いてください。(佐々木先生より)

――坂ノ上さんは、休校中に、新型コロナ対策ソング「マスクをしよう～感染予防～」を作詞作曲され、集会で披露されました。聴かせていただきましたが、本格的なパフォーマンスで感服しました。曲を作るに至った経緯、披露してみての周囲の反響など、お聞かせください。

(坂ノ上さん) この歌は、休校中に少しでもマスクを着けられたらいいな、と思って作った曲です。3学年に集会で披露させていただけて、とても貴重な経験になりました。リズムをとつてくれた人、口ずさんでくれた人がいて嬉しかったです。

またホームページ※から聴いてくださった保護者の方、先生から「涙が出てきた」という最高の褒め言葉をいただきました。この歌が予防に役立てられたら嬉しいです。ご視聴ありがとうございました。

※城内中学校のホームページ、城中だより7月の欄から音源を聞くことができます。

(歌詞より)

晴れ渡って コロナがいなくなったら  
皆で歌って遊んでくっついで  
友達って素晴らしい  
気づけたよ いつもありがとう♪

今年度はコロナで行事が例年通りできなくなってしまい残念でしたが、私は大切なことを学びました。友達、先生方、私たちを支えてくれる人、そして今まで当たり前だと思っていた生活にありがたみを感じました。

――今年度は、例年通りの中体連が行われない中、全部の部活へ取材に行き、メッセージ動画を作成されたと伺いました。

作る際のご苦労、皆さんに披露してみての反響はいかがでしたか？

(櫻井さん) 各部活へ取材に行く際、私は重い8mmビデオのカメラを持ちながら3時間ほど走り回りました。編集もたくさんの中から、鈴木くんと合わせて15分ほどの映像にする必要があり、大変苦労しました。

しかし撮影も編集も鈴木くんと協力しながら行い、学年のみんながビデオを楽しんで観てくれたので、とても嬉しく、良い思い出になりました。



305 鈴木 理央さん

学年副委員長として、櫻井くんとタッグを組み、すごい企画を次々に創り出しています。また、その作品の質の高さには圧倒されます。感謝です！  
(佐々木先生より)

――城中祭代替大会では、「佐々木先生公認撮影隊」として、縦横無尽の活躍をされていました。動画を拝見しましたが、素晴らしい出来でした。もっと皆さんに観てもらいたいです。ご苦労・ご感想など、お聞かせください。

(鈴木さん) 一度は中止となつた城中祭が、生徒会の方々のおかげで代替大会として、開催されることになり、校内でも期待感が高まっていました。しかし、直接見ることのできない競技もあり、実際残念がる声もありました。とはいえ、我々3年生にとっては、最後の城中祭。「何か自分にできることはないか」と考えたり、「後悔だけはしたくない」と思つたりしていました。

そんなとき、佐々木先生からの提案もあり、代替大会での映像制作を決めました。

もちろん、迷いなど一切ありませんでした。見られない競技がある「仲間たち」のためにも、生半可なものではなく、その場で見ているかのような動画を作ろうと決意して当日に臨みました。走り回りながらの撮影は少しきつかったですが、とても楽しかったです。カメラワークも「このシーンをどう表現したいか」と考えて、いろいろやってみました。結果、周りの人に「変な人だー！」という目で見られてしまいましたが…（笑）

そして、撮影の次の編集もかなり頑張りました。編集でも、いろいろ工夫を自分なりに考えて、結構時間はかかりましたが最終的には納得できるものができました。学年全体の前で上映をすると、「感動した」や「よかったですよ！」「ありがとう」といった反響があり、とても大きな達成感や喜びを感じました。ここまで来れたのは、やはり櫻井くんを筆頭とする仲間たちや、佐々木先生の協力があってこそです。本当にありがとうございました。

——限られた環境下で、最上級生として自分たちにできることを考え、実行している姿は素晴らしいと思います。今、取り組んでいることや、今後やってみたいことなどはありますか？

（坂ノ上さん） 私たちにできること、まずはできる範囲の感染予防、そして正しく恐れることです。コロナは誰がかかってもおかしくない病気です。偏見や犯人探しのようなことをするのではなく、相手の健康を気遣う心を持つことが大事だと思います。皆さん、一緒に心がけていきましょう。

——坂ノ上さんの夢はシンガーソングライターになることだそうですね。

はい、音楽は私の生活に彩りを与えてくれます。他にも恋愛ソングなど、いろいろな曲を作っています。エレクトーンで様々な音色を使って作った曲もあります。いつかYouTubeデビューをします！そのときはよろしくお願ひします。

——素晴らしいですね、応援しています。鈴木さん、櫻井さんはいかがですか？

（鈴木さん） 今のところ「裏で大きな計画が進んでいる」とかはないです。ですが、クラスによつては卒業までのカウントダウンをしていたり、という方はあります。

まだ何かやるのか自体わかりませんが、「コロナだからしょうがないね」で片づけることはしたくないと思います。もちろん、その方が楽ですが、できることはやりきりたいです。やらずに

後悔するくらいなら、後悔してもいいから挑戦していきたいです。

あと、卒業まで長い時間はありませんが最後までトップスピードで駆け抜けていきます。

（櫻井さん） 現在、私たち3年生は、三送会や卒業式に向けて合唱の準備を進めています。近頃コロナが再流行しつつあり、歌えるかどうかわかりませんが、城中生として悔いのない卒業ができるよう努力を続けています。もしかするとまた映像を作るかもしれませんので、お楽しみに～。

——楽しみにしています。ありがとうございました。



## PTA活動

バザー実行委員長 杉山 恵一

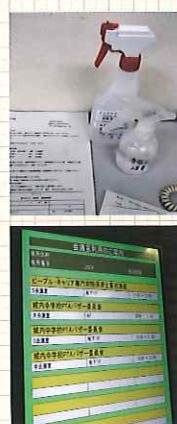
今年度は城中楽市が開催できませんでした。



消毒や聞き取りを徹底し、会議室を複数押さえ充分に感染対策を行った上で開かれたバザー実行委員会。

PTA会長 松本 雅博

アナログ世代の我々にとって新ツールのひとつであるZoomを使いこなせるか不安ではありました。実際に開催してみた以上にコミュニケーションを取ることができたかなと感じております。欲を言えばキリがありませんが、この状況下ですから、Zoom会議は上出来だったと思います。



学校に来る人は充分にスペースを取ります。

# 専門委員会活動報告

今年だからできたこと。  
工夫したこと。  
各専門委員長に聞きました。

## 3学年委員長 土屋 祐子

例年3年学代のメインの仕事は、「卒業を祝う会」の企画・運営ですが、コロナ禍によりやむを得ず中止を決定しました。夏休み前に開催可否についてのアンケートを保護者と子どもたちに書いてもらいました。すると、多くの子どもたちが真剣に考え、答えてくれていました。そのアンケートに感動し、何か学年のためにできることはないかと何度も学年委員会で話し合い、業者による卒業式のDVD制作、販売はどうかと意見が纏まりました。学校側からも了承を得られ、今、業者と話を進めています。後付ですが、今後コロナ拡大状況により万一、卒業式に保護者が入れない場合があってもDVDで見ることができるという利点もあると思います。

## 2学年委員長 豊田 和希子

今年度の2年学年委員会は、コロナ禍で会合を行うか事前に学校と各委員とで確認を取り合い、参加を任意として新しい生活様式で行いました。休校明けの会合では、久しぶりに学校で田口先生を中心に休校中の子どもたちの様子や始まった学校生活の不安等、保護者同士で共有でき、有意義な時間を過ごすことができました。学年としては部活の中心的な学年となり、各部活の活躍ぶりが光って明るい話題が届くことを嬉しく思います。

## 1学年委員長 西澤 直子

コロナ禍の中でも1年生の学年委員会を6月15日、11月14日、1月22日の3回開催することができました。「学校や学年、子どもたちの様子を知る貴重な機会になりました」「同じような悩みを持っている方の話を聞き、不安が少し解消されました」などの感想が出ています。

## 特別支援委員長 萩田 庸子

教科クラス：コロナで休校中にも学習の習慣が継続できるよう、自宅学習に励みました。休校明けには例年より急ぎ足で進む通常級の学習進度に追いつくよう、各学年の授業に取り組みました。

作業クラス：今年度は作業を4つの班（工芸、清掃、栽培、印刷）に分かれて行うことで、より細かく集中して作業に取り組むことができました。その中で、自分に向いていること、苦手などころに気付き、見つめ直し、その力を伸ばそうと努力しました。

## 成人教育委員長 小松 美雪

今年の成人教育講座は、スクールカウンセラーの川島多美子先生を講師に招き、「思春期のこころ」と題して行いました。例年全校保護者に案内し参加者を募っていましたが、今年度はコロナ禍のため、成人教育委員のみとさせていただきました。当日は参加人数が少なかったこともあり、講師と参加者、参加者同士の距離を充分にとることができ、換気や消毒を徹底することに努め無事閉講することができました。

## 環境福祉委員長 柿平 沙織

コロナ自粛中は思うような活動はできませんでしたが、7月、9月にベルマークの回収をし、沢山のベルマークが集まりました。10月に第1回の全体集計を行い、22,081点集まりました。ご協力ありがとうございました。

## 校外育成委員長 大西 典子

今年度は適切な感染対策を考える前に活動自体が中止になってしましました。しかし1つだけですが例年通り行うことができたのは、「親子でつくる標語」の募集です。今回の応募作はコロナ禍を反映するような内容が多く、子どもたちが心に受けた影響は大きかつたことが伝わりました。校外育成の活動は子どもの成長には欠かせないものだと思います。来年度は皆が繋がる活動ができる期待しています。

## 保健体育委員長 西野 恵美

今年は学年対抗、親睦試合、1年で最も気合いが入るこのはなアリーナでのバルーンバレー大会など、中止になった中での練習となりました。学年を気にせず、楽しく親睦を深められるのはバルーンならではだと思います。感染予防のために体育館出入りの際に手のアルコール消毒、換気、参加者の記名など対策をして行っています。

## 安全委員長 大村 登美子

安全委員会は例年通り2回(7/15, 11/18の両日に)安全点検を行いました。子どもたち、学校の安全を第一に考え活動しました。その他、例年なら活動予定である城中祭運動部門での保護者の自転車整理に関しては、コロナ禍で中止となつたため活動はありませんでした。また安全点検で集合する際には、それぞれの距離を取り、椅子を配置し、教室の窓を開ける等、換気に注意して行われました。

このような中で少しでも活動ができて良かったと思います。

## 母親委員会 片岡 直美

6月に第2ブロック母親委員会を書面にて行う。7月に「ひだまりお母さん」第1号を配布。第1回研修会は感染防止のため担当校が主となり、グループラインで休校中の家庭での過ごし方にについてアンケートをし、まとめて「ひだまりお母さん」第2号に掲載。第2回研修会は、感染対策をした上で1月に開催、まとめて「ひだまりお母さん」第3号に掲載。保護者様に役立つ内容を掲載しています。是非「ひだまりお母さん」をご覧ください。

## 補導委員 山崎 啓一郎

青少年が集まりやすい場所を巡回し、思いやりのある温かな声掛けをして、非行を未然に防ぐのが補導の目的です。しかし今年度は、新型コロナウイルスの影響で補導活動は中止と再開を繰り返しており、思うように活動ができていない状態です。この時勢、非行に走るきっかけは町の集まりやすい場所ではなく、ネットやスマホから来るかもしれません。今後は、各ご家庭での見守りが重要になるように思います。

## 広報委員長 高山 礼子

「Jonai Press」ですが、おかげさまで今年度の市P連の広報誌コンクールでは優良賞、県P連のコンクールでも優秀賞をいただくことができました。今後とも城内中の皆様に楽しんでいただける広報誌を作つて参ります。引き続きのご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。行事がなくなり、学校に出向く機会の減る中、この環境下で自分たちにできることをやろう、奇を衒わず、丁寧にストレートに日常生活をお知らせする紙面を作ろうと、原点回帰したような1年でした。1日も早く、新型コロナが終息することを祈ります。